

鈴木敏弘氏（史学科第一回卒業生）の
学位取得と著書（論文集）出版を祝う

南 啓 治

昨年（二〇〇四年）七月開催された「史学科創立二〇周年大会」は、学長のご臨席をはじめ、多くの新旧教職員および卒業生が参集し、賑やかで楽しく、また意義のある会として成功裡に終了したが、その際、プログラムに設定された「卒業生の研究発表」のところで、「荘園制の成立と荘園整理令」と題して発表した第一回卒業生の鈴木敏弘氏が、此の度法政大学から学位（博士〈歴史学〉）を授与されたと聞き、心からお祝いを申し上げたい。また、その対象となった学位論文が此の度出版されたことにもお祝いを申し上げたいと思う。

史学科が迎えた最初の入学生である第一回生に対しては、私達教員や職員もかなり張切って対応したとの記憶が、いま、当時を振り返れば強いが、おそらくそれは第一回生の方にも強くあつたのではなからうか。昨年「史学科創立二〇周年大会」で再会した多くの第一回卒業生が、今日各界の第一線で責任ある仕事を任され活躍されていることにも、それが表れているように思う。

そうした中の一人に鈴木氏もおり、此の度の快挙となったわけであるが、そこでここでは氏に対するお祝いの意味を含めて、理解している範囲で、これまでの氏の学問的業績の跡を簡単に紹介してみたい。

氏は在学中、おもに阿部猛教授のゼミに出席し、古代史・中世史を勉強し、卒業論文も阿部教授に提出した。卒業論文の題目は『美濃国における封建制の成立と展開』である。卒業後は法政大学大学院に進み、中野栄夫教授を指導教授として研鑽を積み、また、同大学院でも教鞭をとっておられた大学時代の恩師阿部猛教授にも引き続き教えを受け、同大学院の修士課程・博士課程を修了した。そして、大学院在学中および修了後、今日に至るまで、数多くの著書・論文を発表されたが、そのおもな業績をあげると次の通りである。

- 著書
- ① 『絵で見る年表足立風土記』（共著）足立風土記編さん委員会編、足立区教育委員会発行（平成四年三月刊）
 - ② 『護国寺史』（共著）中野栄夫編、護国寺発行（平成八年四月刊）
 - ③ 『江東区史』上巻（共著）江東区役所発行（平成九年三月刊）
 - ④ 『葛西氏とその時代』（共著）葛飾区郷土と天文の博物館編、宍書房発行（平成九年十二月刊）
 - ⑤ 『葛西氏の研究』（共著）入間田宣夫編、名著出版発行（平成十年五月刊）
 - ⑥ 『関東地域史研究』第一輯（共著）白川部達夫編、文献出版発行（平成十年十月刊）
 - ⑦ 『隅田川の伝説と歴史』（共著）すみだ郷土文化資料館編、東京堂出版発行（平成十二年六月刊）
 - ⑧ 『日本中世の政治と社会』（共著）、中野栄夫編、吉川弘文館（平成十四年九月刊）

⑨ 『日本統治下台湾の支配と展開』（共著）中京大学社会科学研究所台湾史研究部会編 中京大学社会科学研究所発行（平成十六年三月刊）

⑩ 『中世成立期の荘園と都市』（単著）東京堂出版発行（平成十七年五月刊）。なお、同著書は学位論文を刊行したものであり、その書評は阿部猛元教授により本誌本号に別掲されている。

論文

① 「下総国葛西御厨の成立と伝領」『日本社会史研究』二十三号（昭和六十二年八月）

② 「撰関期における一受領の功過定とその生涯」『法政史学』四十六号（平成六年六月）

③ 「荘園整理令下の在地情勢とその認識」『史潮』新三十五号（平成六年六月）

④ 「『吾妻鏡』治承四年十月二日条の解釈をめぐる一考察―隅田宿の位置を中心に」『日本社会史研究』三十四号（平成六年六月）

⑤ 「撰関政治成立期の国家政策―花山天皇期の政権構造―」『法政史学』五十号（平成十年三月）

この他、学会での口頭発表、学会参加記、書評なども多く数えるが、ここでは省略する。

なお、鈴木氏は現在法政大学非常勤講師を勤めるとともに小金井市史編集委員をも勤められている。ともあれ、氏の今後における精進と活躍を期待したい。

（二〇〇五年九月）